

韓国の「新しき両班」

韓国では尹錫悦ユンソクヨクが大統領に当選して半年が経つ。

選挙期間中、尹は前職の文在寅モンジンイン政権中樞部の不正を暴く捜査を指揮し、文は在任中に検察の捜査権を剝奪する法改正に打って出た。尹と文の暗闘がつづいている。

大韓民国成立後をみるだけでも、韓国の大統領の最期はほとんどが悲劇的なものであった。李承晩イ承晩は亡命してハワイで客死、朴正熙パクジョンヒは暗殺、全斗煥チョンドファンは死刑判決、盧泰愚ノムテウは懲役、盧武鉉ノムヒウは投身自殺、李明博イミョンボクは懲役、朴槿恵パクギンヘは弾劾・追放とつづいた。

こうした悲劇は、実は、朝鮮の伝統的な政治文化に由来する。米国内務省のスタッフとしてソウル、釜山で長らく勤務し、その後、アカデミズムの世界に入って名著『朝鮮の政治社会』（サイマル出版会）を著わしたのがグレゴリー・ヘンダーソンである。氏はこう述べている。

「李朝の政府とは、人びとを急速にそのなかにまき込んでしまう巨大な渦巻きであって、瞬時にして彼らを野心の絶頂近くに押し上げるかと思えば、次の

渡辺利夫わたなべとしお（公益財団法人オイスカ会長）

一九三九年、山梨県生まれ。七〇年、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。筑波大学・東京工業大学教授、拓殖大学学長、総長、学事顧問などを歴任（二〇一〇年十二月、退任。二〇一七年六月より現職）。

瞬間には彼らを一掃し、しばしば呵責かしゃくなく処刑したり追放したりするのであった。それは、田園ののんびりした四季のリズムとなら関係のないものであった。……王朝は平静を装いながらも、興奮と論争に明け暮れた」

伝統的な政治文化からみずからを解き放つことはいかにも難しいことなのであろう。李朝時代の高級官僚が両班ヤンバンである。科擧コキョというきわめつきの難関に挑んでこれを突破した一握りの秀才たちであり、彼らが絶対的専制君主の朝鮮王を取り巻いて、王を支えて国を統治がなされてきた。

しかし、両班は一枚岩ではまったくない。両班を構成していたものはいくつかの血族や門閥であり、その相互の抗争には凄まじいものがあった。両班とは文班と武班のことだが、主流は文班であり、儒学の知識に秀でた文班血族の熾烈しちれつなイデオロギー闘争（党争）が李朝史を彩る。現代韓国の左派政治家、官僚エリート、知識人層は「新しき両班」なのに違いない。